

書評

鈴木重行(編著)
平野幸伸・鈴木敏和(著)

ID 触診術(第2版) Individual Muscle Palpation

評者 沖田 実

(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科運動障害リハビリテーション学分野)



このたび、鈴木重行先生編集の『ID 触診術 第2版』が上梓された。いうまでもなく ID とは individual の略称であるが、本書では「個別の骨格筋」という意味合いで用いられている。理学療法士や作業療法士を中心としたリハビリテーション専門職ならびにスポーツトレーナーなどにとっては、個々の骨格筋の触察は筋緊張異常や筋性拘縮などといった骨格筋病変の把握、あるいは痛みの発生源やその原因の探索などを進めるうえで必須の評価技術であり、本書の初版はその意味でバイブル的な役割を担ってきたと思っている。

そして、今回の改訂では初版の読者からのリクエストに応えるようさらに改良・工夫が施されており、学生や新卒者といった初学者にとっても活用しやすいものになっている。特に、骨格筋の触察の基本事項が整理され、骨学の講義・演習にも利用できるほどのボリュームをもって骨格筋の触察の際のポイントとなる骨のランドマークについて解説されている。

そして、特筆すべきは実際の触察風景の写真内に骨格や筋のイラストを挿入し、触察を進める際のそれぞれの位置関係が三次元的にイメージできるよう工夫されている点である。学生時代、解剖学の知識として骨

格筋の起始・停止を記憶することが求められるが、これだけでは二次元的なイメージしか習得できず、実際の臨床場面では応用が効かないことは誰しもが経験していることと思われる。つまり、触察のみならず、骨格筋の評価・治療を行う際は本書に描かれているイラストが頭(脳)でイメージできるようになる必要があり、これができるようになれば、この点について熟知してきていると自己評価できるのかもしれない。私自身、講義のなかでしばしば学生に「骨・関節や骨格筋が体表から透けて見えるようになりなさい」とアドバイスしているが、まさにそのことを書籍としてまとめられたのが本書であり、鈴木先生をはじめ著者の方々のアイデアに敬服する次第である。

ボリューム的には初版に比べ 40 ページほどの増量となっているが、これは上記のような点が加筆されているためであり、これまで以上に骨格筋の体表解剖学の参考書として推薦できる書である。

●A4 判, 248 頁, 4 色刷
定価: 本体 7,600 円+税
三輪書店刊, 2014 年